

木内ひとし 県議会だより

平成 19(07)年 3 月発行

佐久総合病院の再構築は？ 3月1日（木）、木内ひとし県議一般質問に立つ

①地域医療充実に対する支援について

木内

佐久総合病院は、長野県初の『ドクターヘリ事業』の導入や『地域がん連携拠点病院』の指定を受けるなど、地域医療の牽引役を果たしている。また、農村医学、農村医療の研究や普及活動に関しては、世界に対する情報発信基地となっている。現在、研修医枠 15 名に対して、平成 16 年 88 名の応募、17 年は 82 名、18 年は 73 名、19 年は 53 名と、枠を大きく上回る研修希望が殺到している。

しかし赴任してみると、高い志がなえてしまうような築 40 年以上の老朽化した病棟、時代遅れの医療環境という劣悪な施設環境に直面している。また近隣病院の医師不足のしわ寄せが佐久病院に集中し、大きな負担となっている。「こういった状況を放置すると、『研修医が放っておいても来る』というような現在の恵まれた状況は続かない」との危惧の声が病院内部から上がっている。佐久病院最大の課題は病院の再構築問題であり、「小児科医療センター」、
「産科医療センター」としての役割を持つ基幹医療センター
(新病院) 建設が急務である。

新病院建設のため、厚生連は、平成 17 年 5 月に佐久市中込に約 4 万坪の土地を取得し、地域医療センターとして、さらに基幹医療センターとして再構築を計画しているが、この取得した土地が工業専用地域内であるため、建設ができない状況にある。

しかし特例として、市長による決定、公益に貢献する事業、地域住民の同意がそろえば用途地域の変更は可能であり、病院の建設ができると認識している。

佐久病院再構築問題について県はどのような協力ができ、支援ができるのか？

県の回答

■佐久病院の課題は？

衛生部長 建物の老朽化、利便性の向上、病院機能の再編等と考えている。

■病院再構築に関わる移転の問題点は？

企画局長 用途地域の変更は市町村において変更案を作成したのち、公聴会の開催や市の都市計画審議会を経て、知事の同意を得た上で決定される。まずは地元の合意形成に努めて欲しい。

■県はどのような協力ができ、支援ができるのか？

村井知事 佐久総合病院は地域の中核病院として非常に大きな役割を担っている。まず地域において、地域医療、地域保健といった観点に加えて、土地利用や地域経済といった面も含めて十分に話し合い、合意形成に努めることが肝要。合意形成ができれば、県としてしかるべき応援をして

いきたい。

②中部横断自動車道と周辺事業について

木内

現在の状況は、『国土幹線自動車道建設会議』の開催が不定期で、いつ開かれるともわからない状態。しかも、開催されたとしても八千穂から山梨県の長坂ジャンクションまでの 38 キロ間の基本計画が整備計画に格上げされるのか全くわからない状況であり、あわせて与党国会議員が不在という大変厳しい環境にある。県は今後どのような具体的な取り組みをしていくのか？

県の回答

土木部長 中部横断自動車道は臨海部と内陸部との連携を促進し、新たな物流体系の確立や産業、経済等の振興に寄与する極めて重要な道路。これまでに、県では国の調査を補完する航空写真や地形図を作成するなど国と一体となって所要の準備をしてきた。今後は環境影響評価の手続きに早期に入るよう、地域と一体となり、路線の必要性を国へ強く働きかけていく。

木内

東日本道路株式会社による有料道路方式から国による『新直轄整備方式（無料の自動車専用道路）』となった中部横断道の影響で、**佐久南部広域農道**については、佐久市白田の切原地区以南の計画が見直しとなった。

国道 141 号は、現在、佐久市野沢地区から白田地区に向けて 4 車線化工事が進んでいるとはいえ、白田地区から南佐久郡にかけては自動車事故等が起ると交通が分断されてしまうといった大変危険な状況が続いている。

したがって、この佐久南部広域農道は、農道としての役目はもとより、国道 141 号のバイパスとしての機能も期待されており、地域にとって必要不可欠な道路である。建設時期が未定の中部横断自動車道の整備とリンクをさせて見直すのではなく、早期に建設を推進していくべきであると考えているが、県の見解は？

県の回答

農政部長 佐久南部広域農道は、現在採択されている区間約 7 キロのうち、佐久穂町地籍の 2.3 キロが開通している。中部横断自動車は、佐久南インターチェンジと八千穂インターチェンジの間に 2 カ所のインターチェンジが追加されることに加え、無料化されることにより、広域農道の主な役割である農産物の輸送機能が中部横断自動車道と重複することになった。計画交通量を見直すなど、効果を再検証しているところである。

“佐久病院再構築”に関して賛成の立場から質問する木内ひとし県議



「佐久病院救命救急センターの建設は、一刻の猶予もならない！」平成19年3月1日県議会本会議にて

【まとめ】

木内

本日の私の質問は、佐久病院の再構築と中部横断自動車道とその周辺事業という一見何の脈絡もない2つの地域課題を取り上げたように見えますが、実はこの二つの問題は関連しています。

新佐久市誕生に当たって、旧市町村での合併協議があり旧臼田町は、中部横断道沿いに、開放型のパーキング方式による救命救急センター建設という“メディカル・ハイウェイ・オアシス構想”を掲げました。佐久病院関係者からは、「移転問題が中部横断道の建設促進のために使われている」といった声が聞かれました。

今回の質問で明らかになったとおり、中部横断道の建設促進は一朝一夕に進む問題ではありません。この事業と関連した構想は、超長期的な将来ビジョンとしては夢がありますが、一刻の猶予もならない佐久病院の再構築問題をこれと結びつけることには無理があります。

また、厚生連が現在取得している土地への基幹医療センター建設は、法律論として可能であることが確認されました

佐久病院の再構築問題は、一病院だけの問題ではありません。長野県医療の大きな役割を担っている佐久病院の再構築問題に県としても積極的に関わっていただきたいと強くお願いします。

佐久総合病院の再構築とは・・・

築40年以上という病院施設の老朽化、狭い敷地、舗装が許されない千曲川河川敷駐車場などの課題を抱え、新病院建設が急務となってきた。

佐久病院の構想では、現在地にある病院を一般・慢性期医療や高齢者医療・福祉などに対応する『地域医療センター』として、さらに東信地域の多くの方が受診しやすい場所に救急医療、高度専門医療、地域がん診療拠点病院などの各種指定を受ける『基幹医療センター』として再構築をしていくというもの。